

2016年12月12日

各位

積水ハウス株式会社

「オリジナルユニットバス ベンチスタイルの開発」など3点が「IAUDアワード2016」において“IAUDアワード住宅設備部門”を受賞

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則)は、12月9日(金)に発表された「IAUDアワード2016」(主催:一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会(IAUD)、事務局:横浜市青葉区)において、「オリジナルユニットバス BCH-V ベンチスタイルの開発」「安全配慮引き込み戸」「把手レス収納開き扉」の3点が“IAUDアワード 住宅設備部門”を受賞しました。

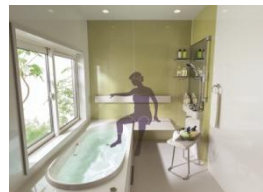


「IAUDアワード」は、国際ユニヴァーサルデザイン協議会が、“一人でも多くの人が快適で暮らしやすい”UD社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行っている団体・個人を表彰するものです。

積水ハウスは、長年にわたり「いつもいまが快適」な「生涯住宅思想」の具現化を目指して、「スマートユニバーサルデザイン」(安全・安心、使いやすさに加えて、心地よさにも配慮した、ユニバーサルデザインの進化形)の理念のもと、一歩進んだユニバーサルデザインの研究開発と普及に取り組んでいます。

受賞作品:オリジナルユニットバス BCH-V ベンチスタイルの開発

「オリジナルユニットバス BCH-V ベンチスタイル」は、日本人の様々な入浴スタイルに合わせ、座ったままの楽な姿勢でシャワーを浴び、身体を洗える可動式ベンチのあるユニットバスです。浴槽に入る際に可動式ベンチに一旦腰掛け、安定した座り姿勢で移動しながら入ることもできます。高齢者だけでなく、乳児をベンチに座らせて一緒に入る大人が身体を洗う行為も容易に行えるなど、使い勝手に配慮しています。



オリジナルユニットバス BCH-V
ベンチスタイル

受賞作品:安全配慮引き込み戸

室内建具の「安全配慮引き込み戸」は、指はさみの危険性を少なくするように設計された引き戸です。引き残しが無い引き込み戸は有効幅が大きく取れる半面、指をはさむ可能性があるなどの課題があります。積水ハウスでは、引き手の形状や身体の動きの検討を重ねることで、わかりやすいシンプルな機構で手をかけやすく、引き込まれにくい形状を開発しました。安全性・操作性の向上を図りつつ、コストダウンを実現して戸建て住宅の標準仕様としました。

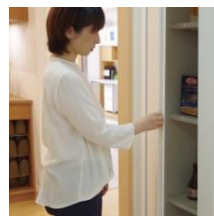


安全配慮引き込み戸

受賞作品:把手レス収納開き扉

部屋の空間をすっきり見せたいというニーズから、把手金物のない収納扉の人気の高まっていますが、扉の小口の浅いくぼみに指をひっかけて開け閉めするため、使いやすさに問題がありました。

「把手レス収納開き扉」は、扉の小口形状の工夫によりしっかりと指がかけられ、また、扉の枠が表に出ない「アウトセット納まり」を採用することで、意匠性にも優れています。吊り元側での指はさみを防ぐ空き寸法を設け、ソフトクローズ機能を付加するなど、安全性にも十分配慮がなされています。



把手レス収納開き扉